



NZSJ は 1959 年 11 月から数えて、今年は創立 60 年目を迎えております。

日本ニュージーランド協会 ニュースレター
NEW ZEALAND SOCIETY OF JAPAN

WAIHEKE 2019 年 7 月号

New Zealand ワインパーティー

上野不忍池の蓮の花を眺め、冷えたワインを頂きませんか

日時:2019 年 7 月 27 日(土)13:00~15:45

受付 12:30

会場:ホテルパークサイド上野 10 階

「パークトップ」

〒110-0005 東京都台東区上野 2 丁目 11-18

交通アクセス:JR 線上野駅しのぼり口から徒歩で 6 分。

京成線上野駅から徒歩で 4 分。

地下鉄千代田線湯島駅 2 番出口から徒歩で 1 分。

会費:5,500 円(食事+飲み放題)

NZ ワインは会で持ち込み

参加希望の方は 7 月 24 日(金)までに

hp-manager@nzs.jextrem.ne.jp

宛、または最寄りの理事までご連絡下さい。

日本ニュージーランド協会 6 月例会の報告

映画観賞会実施レポート

- 題名 : 『クジラの島の少女(英語名:Whale Rider)』
日時 : 2019 年 6 月 22 日(土) 13:20~16:20
会場 : [カラオケ ビッグエコー新宿東口店](#)
会費 : ¥4,000(食事+部屋代+飲み放題付)
参加者 : 山崎会長ほか 11 名(内 1 名は遅れて参加)

3 月 1 日の理事会で企画された表記の映画観賞会を、予定通り開催しました。

マオリは、新天地を求めクジラに乗ってやって来たパイケアの子孫である！

と言う、ニュージーランドの原住民マオリの伝説を基に書かれた同名の小説(ウイティ・イヒマエラ作)を基に創られたニュージーランド映画(2002 年公開)で、その伝統を守ろうとするマオリ一族の物語です。

すでに観たことのある3名を含めた 11 名にて、ビールを飲みながら鑑賞を始め、約 100 分に及ぶ長編を最後までジックリと楽しむことができました。

緩やかな時間の流れの中、次々と展開されて行くストーリーと共に、ニュージーランドの自然と、そこで長い間受け継がれてきたマオリ族の文化を、じっくりと味わうことのできる映画でした。

先祖パイケアの血統を継ぐ主人公の少女が、伝説の勇者と同じパイケアと名付けられながらも、出生時に母を失い、父は家を飛び出したまま戻らず、しかも女であるがゆえに、種族の長である祖父からその存在を無視され続けるという苦難にもメゲずに、たくましく生きて行こうとする姿が見事に描かれていました。

特に、少女パイケアが美しい伝統衣装を着て涙をこらえながら歌う、とても悲しい姿がかき消されてしまうほど劇的な展開を迎えたクライマックスでは、張り詰めた雰囲気の中、その決着を迎えるまでは、だれ一人として言葉を発することも無いほどに見入ってしまい、あっという間に The End となりました。

この映画の詳細についてご興味をお持ちの方は、下記をご参照下さい。

-  **Wikipedia** : [クジラの島の少女](#)
-  **YAHOO! 映画** : [クジラの島の少女](#)
-  **YouTube** : [Whale Rider: 15th Anniversary Edition](#)

★ この映画は、そのストーリーを知りつくした後でも十分に楽しめる名作です！

★ またストーリーのみならず、舞台となったマオリの村についても興味深かったことから、後日に調査した内容を次ページで紹介させていただきました。

映画の舞台となったマオリの小さな村について

この映画の舞台となったファンガラ (Whangara) は、首都オークランドのある北島の東岸ギズボーン市の北に位置する小さな村で、今もマオリ族が静かに暮らしています。

ドラマが展開される中心地となった赤い屋根のマエラ (マオリ族の集会場) も、以下の様に Google Earth 上で確認することができました。



この村の風景を含めた詳細については、以下のブログを参照してください。

[100% Wool 『クジラ島の少女』のロケ地ファンガラの村を訪ねる](#)

このブログは、映画観賞の後で見つけて読んでみたのですが、最後に綴られた文章がとても印象的だったので、以下に転記させていただきました。

まとめ

ファンガラの町はどこを見ても作品中で見た印象深い風景ばかりで、より一層、この作品の世界を感じることができる場所でした。一時間ほどの滞在時間でしたが、終始興奮しながら歩いてしまいました。

そんなファンガラの町ですが、町には作品にちなんだ案内などは一切なく、マオリ族の人々が普通に生活を送っているという静かな田舎町です。訪問する際には、現地の人々の生活を尊重した行動を心がけて下さい。

日本ニュージーランド協会

片山 愛一理事

季節のご挨拶(2018年)

土と内臓

「土と内臓」(築地書館刊)というタイトルの本をようやくにして読み終わりました。333 ページに及ぶ大部であり、翻訳が何ともくどくて難しく、苦勞して読みました。原題は The Hidden Half of Nature で、著者はアメリカの地質学者のデイビッド・R・montgomery、生物学者のアン・ビクレ夫妻。

この本では、これまで微生物＝病原菌というあまりいい役回りではなかった微生物に光を当て、微生物の土壌中及び人体の大腸での活躍を取り上げています。ユニークだと思われるのは、大腸で活躍する微生物にとって、取り込まれた食物が胃～小腸までの間で分解・吸収されずに届くものが必要で、それが野菜だということです。ともすれば、野菜を毎日食べることは大切とされてきましたが、これは栄養分としてのものでした。この本では、栄養分としてだけでなく大腸で活動する微生物にとって野菜が格好のえさであり、微生物の大腸での活動が人間の健康を維持するのに繋がるということを描いています。

この本に刺激され、これまでよりも大量の乾燥馬ふん、草木灰、コンポストを土壌に投入し、今シーズンは栽培を始めました。今後のために、これまで芝地にしていたところを草地にして、これを刈り取ってコンポストを作っています。

コンポストを中心とした有機栽培、それによって生産される野菜、これを食べて健康になる。感銘深い本です。

鳥たち

ツバメ

今年もツバメたちが現れ、わが家の台所の外の軒下にある巣で子育てをしています。巣は2つあり、1回目は台所に向って左手の巣で子育てを行い、4羽の雛を飛び立たせました。今は2回目で向かって右側の巣で、この巣は今年から初めて使っています。親鳥は巣に座っていると、首から腹にかけてのオレンジ色が印象的です。小さい雛たちは、巣の中でもぞもぞしていましたが、年末になって飛び立ちました。

ベランダの隙間の巣づくり

2F のベランダのちょっとした隙間でブラックバードが巣を作っていました。私たちがすぐその巣の上まで行くようなところです。ガラス戸越しに、何かよくブラックバードが来ていることが気にはなっていたのですが、巣まで作っているとは。おかしいと気が付いたのは、ベランダを下から見上げたときのことです。藁がその隙間から出ていたのです。よくよく見たら、支えの丸太と踏み板のちょっとした隙間に巣がありました。卵がありました、取り除きました。

若鳥たち

11 月まで、どうもこの春に飛び立ったと思われる若鳥たちの事故が続きました。一つには家のガラス窓に向ってぶつかって来るのです。ぶつかったあと地面に落ち、しばらくすると再び飛び立っていくのですが、中にはそのまま死んでしまったものもいます。ブラックバードやカワセミです。

これも毎年のことですが、ストーブの煙突に入り込み、もがいても出るに出られず、ずるずると煙突の中を落ちて、遂にはストーブの中に落ち込んでしまいます。これは好奇心旺盛なマイナの仕業です。ストーブの扉を開けて外で出て行かせようとするのですが、室内を飛び回り、ガラス戸にぶつかり、ようようにして外に出て行ってくれます。時には捕虫網で捕まえて、外に放すこともあります。

ウズラ

ウズラは飛ぶのが苦手な鳥ですが、地上を早く歩くのは得意です。このところ小さな雛鳥を連れて、歩き回っています。子だくさんで 10 匹くらいを引き連れています。このウズラ、オスとメスを見分けるのは簡単です。オスには立派な大きな冠があるのですが、メスは小さい。集団で歩いているときには、先頭をオスが歩き、雛がそれに続きます。そして一番最後をメスが付いてきます。オスとメスとで雛たちを保護しているように見えます。

昆虫

ハエ取り

夏になると当然のことながら、気温が上がり、それにつれて、ハエが台所に現れるようになります。発生源はどこなのかよく分かりません。

そのハエ退治として、当地で一般的なのは殺虫剤でハエを殺すというもの。これは気体にした殺虫剤を、人がハエに向けて吹き付けるというものではなく、壁に殺虫剤の缶が取り付けられてあり、一定の時間間隔をあけて自動的に殺虫剤が噴霧されるという方法です。

生活の中で、化学物質の使用をなるべく減らすようにしているわが家としては、この殺虫剤を使うわけには行きません。そこで登場するのが、捕虫網です。これを振り回してハエを捕まえます。プラスチックの容器に食器洗い洗剤を溶かし、捕ったハエを入れます。皮膚呼吸のハエにとっては、洗剤が皮膚に取り付いて、呼吸ができなくなり死にます。今のところ、この方法とクモによる捕殺とで、ハエのあまり気にならない生活をしています。

ハエも寒くなると、自然といなくなります。

クモ

家の内外にクモの巣がいっぱいあります。しかし、クモは殺しません。クモはハエを捕

まえてくれます。クモの巣にかかったハエは、クモの糸でぐるぐる巻きにされます。その後血を吸われ、死んでしまいます。クモの巣の下には、ハエの死骸が落ちています。

放っておくとクモの巣だらけとなるため、時々クモの巣は取り払っていますが、クモは殺しません。

DIY (Do-it-yourself)

ここでの生活では、自分でやらなければならない仕事がたくさんあります。家を持っていたら尚更です。

塗装

わが家のベランダ、テラスは木製のため、ステインという塗料を数年おきに塗らなければなりません。ウォーターブラスターで表面の汚れを吹き飛ばし、乾燥したらステインを塗ります。大仕事なのは家の壁の塗装です。これもステインが塗ってありますから、定期的に塗らなければなりません。台湾の友人が来たときにその仕事してくれますが、これから先どうなることか、心配のタネです。当地の何でも屋さんにお問い合わせすることになるかもしれません。場合によってはステインから、より長期間塗り替えの必要のないペンキ塗りにするかもしれません。

パテ

わが家の特徴の一つは、ガラス窓が多いこと。ガラス窓はアルミサッシではありません。木枠の中央にガラスをはめ、外側からガラスをパテで止めてあります。長い年月の経過の間に、このパテがひび割れたり剥れたりしてきます。これまでにパテは陶磁器の修理に使った経験はありますが、ガラス用のパテは初めてです。ガラス用があることも今年になって初めて知ったほどです。パテをお湯の中に入れて温めてから使います。パテが10日ほどで完全に乾いたあと、木枠と同じ色のペンキをパテの上に塗ります。

雨漏り

このところ、あまり雨漏りしなくなりました。雨は意外なところから屋根裏や外壁を伝って雨漏りとなります。漏れてくるところをマークして、雨が上がったら屋根に上ってみますが、なかなか浸水口が分からないことが多いです。

電球交換

DIY というほど大げさではないのですが、何故か、よく電球を交換しなければならないように思います。4種類の口金があり、なかなか複雑。電球の格好をしているもので、日本と同じようにくるくと右回しをして差し込むもの。同じく電球のような格好はしているのですが、口金がネジになっておらず、ネジにあたる部分に横に向いたピンがあり、ソケットに押し込んで右に廻して止めるもの。更には直径 5cm ほどで円錐形をした小

さな電球で先に細い2本のピンがあり、これをソケットに差し込むもの。そして最後に、一般的な横長の蛍光灯で両端に2本ずつのピンがあり、押し込んで手前か反対側に回して止めるものがあります。電球が切れ買物に行くときには説明が難しいので、現物を持っていくことになります。

修理など

身の周りに起こるさまざまなことを、日々、一つずつ片付けています。

台所の水回り、繕い物、クモの巣取り、雨樋の掃除、草刈り、コンクリートでの穴埋め、掃除などなど

パン屋さんのない町

今住んでいるパエロアは、人口 3,885 人(2013 年センサス)の酪農業を主体とする町です。これだけの人口があるにもかかわらず、自分のところでパンを焼き、売る店がないのです。パンは主食とまでは言えないにしても、毎日の食卓によく出てきます。パンを求めようとすると、スーパーマーケットかこの国のコンビニに当たるデリーーに行くしかありません。そこで売られているのは、どこかの町で焼かれて、運送され、この町に来たものしかありません。味は何とも不味い。

どうしてこれだけの人口があるにもかかわらずパン屋さんがいないのかと考えると、いつも同じところに行き着いてしまいます。それは味に対して食欲ではないということ。では何に食欲かと言えば、量と値段。伝統的といわれるミートパイにしてもフィッシュ & チップスにしても、なかなか美味しいものがない。それでも売れていくのは、量と値段のせいと思うしかありません。

NZで毎月発行されている GekkanNZ(月間 NZ)という日本語のフリーマガジンがあります。ここに載っていたのがオークランドの Mt. Eden にあるパン屋さん。早速行ってみました。確かに美味しい。以来、オークランドに行くたび、Mt. Eden まで足を伸ばしてバゲットを買ってくるようになりました。

パンではないのだが、インド料理店で焼くナンはなかなか美味しい。この小さな町にもインド人が経営する 2 軒の店があります。他にもアジア系の料理店は、タイ、中華、日系とあります。パンに代わる美味しいものは、こうした店から生まれてくるのではないかと期待しているところです。

続く

ジリアン・ヨーク 理事



年会費納入お願い 会員の方は2019年度の年会費3,000円を例会ご出席時にお支払い願うか、郵便局でお振込み下さい。

お手数ではございますが、今後、(本年度11月以降は) ゆうちょ銀行の
記号 10180 番号 74818531

名前 ニホンニュージ ーランド キョウ
へお振り込みくださいますようお願い申し上げます。

尚、郵便局の振替用紙(払込取扱票)を用いた、

口座記号番号:00190-1-743478,

加入者名: 日本ニュージーランド協会

への振り込みは廃止することといたしました。

日本ニュージーランド協会のホームページ <http://nzsj.tokyo>

日本 NZ 協会の今後の予定

創立 60 周年記念パーティー

2019 年 10 月 26 日

NEW ZEALAND SOCIETY OF JAPAN (日本ニュージーランド協会)

2019年度理事 (会長以外は50音順)

会長: 山崎 弘子 理事: 麻生 敏子、生沼 玲子、神谷 尚武、片山 愛一、

佐藤 松雄、島田 勝弘 Jillian Isabelle Yorke、真島 由香、

庄司 桂一郎(副会長)、丸山 有紀子 (会計)、水野 伸夫(副会長)、

監事: 梅谷 要 顧問: 黛 雅男